

男子砲丸投げで5大会連続のパラリンピック出場を目指す、洋野町の大井利江さん(72)。古希を迎えてもお躍進を続ける大井さんを陰ながら支え続けてきたのが、同町に住む八戸学院大健康医療学部看護学科4年の麥澤菜奈(むぎさわ・かな)さん(22)だ。大井さんがプール

で筋力トレーニングを行う際の補助役を務めており、大井さんも「同志のようだ」と厚い信頼を置く。来春、大学を卒業するためコンビは解消となるが、麥澤さんは「大舞台で活躍してほしい」とエールを送る。

(金濱千優希)

## パラリンピアン大井さんに力強い味方

25日に同プールで行った練習では、大井さんの面腕に水中で負荷がかかる装具をはめ、腰に結んだひもをしつかり握り、トレーニング中に姿勢を崩さないようサポート。衰え知らずの大井さんの鍛えられた腕力に「いつも負けてしまつて、どんどん後ろに下がる」と苦笑いするが、雑談も交えながら慣れた様子で約30分手助けした。大井さんも「補助役はなかなか引き受けてもらえないものだが、声

2人がタッグを組んだのは約4年前。大井さんが砲丸投げで東京パラを目指す中で、水中トレーニングを行うことを計画し、地元の種市屋内温水プールで水泳教室の指導をする麥澤さんに補助役を依頼した。看護師になる夢があった麥澤さんは、「自分にとっても良い経験」と快諾。以降、週3回の練習を支援しており、好記録の一助となっている。

# 50歳差“同志”躍進支える

## 麥澤さん(八学大) トレーニング補助

を掛けて本当に良かった。ト域が全然違う」と感謝しきりトレーニングの有無で腕の可動だ。

### 就職で来春 コンビ解消 大舞台での活躍応援

大井さんとは50歳の年の差があるが、「冗談も言つし、まるで友人のよう」と頬を緩ませる。加えて「一つの目標に向かって努力を続けるのは難しいことなのに、大井さんは障害や年齢に負けず、練習に励んでいてすごい」と尊敬のまなざしも向ける。

大井さんの頑張りに負けじと、麥澤さんも勉学に励み、大学卒業後は青森市の病院へ就職することが決定。大井さんを補助する経験から「苦痛に寄り添いながら、その人らしい生活が送れるような看護をしたい」と理想の看護師像を描くこともできた。

唯一心残りなのは、東京パラが来夏へ延期になったことで、大会直前まで練習に付き合えないこと。それでも、残りの時間で後継者を探しながら、精いっぱいサポートをするつもりだ。「パラでは1位を取ってほしい。活躍をテレビや新聞で知れたらいいな」と話す麥澤さんに、大井さんも笑顔でうなずいた。